



山梨 浩利先生のこころとからだを癒すアート 「陰陽」

本誌を横にしてご覧いただくと、3D(立体的)にみえてきます。この時、脳波は自然界(地球)と同調しています。眺めることで心身の健幸に、飾って場の浄化などにもお役立てください。

山梨浩利先生の HADO講座

第35回

HADO(波動)的観点からみた 食材 その12 ネギ

魔除け、厄除けの食材？

お神輿みこしや橋の欄干についている「擬宝珠ぎぼしゅ」。これはネギの花のつぼみであるネギ坊主をかたどったものだといわれています。こうして古くからネギが神事や祭事などに捧げられてきたのは、その強い匂いが魔除けや厄除けに効果があると信じられてきたからでしょう。

そういえば、同じく強い匂いのニンニクも、西洋ではドラキュラが苦手な食材でした。

この強い匂いの正体である「アリシン」にネギの薬効の秘密があるのです。

疲労回復や安眠にも効果アリ

アリシンにはビタミンB1の効果を高める働きがあります。ビタミンB1が多く含まれる蕎麦の薬味としてネギが使われていることは、とても理にかなったことだったわけですね。

HADO(波動)測定で「肝臓」「疲労」の数値が高いのは、まさにビタミンB1の働きを示しています。

またアリシンの身体を温める作用も「手足冷感」「血液循環」の数値からわかります。風邪のときにネギを摂ると良いといわれているのは、こうした理由からでしょう。

民間療法でガーゼなどにネギを

くるんで首に巻くというのがありますが、こちらも喉を温める作用を期待したものと考えられます。アリシンの持つ抗菌作用も相乗的にはたらくためか「咽頭いんとう」「喉頭こうとう」の数値も高いですね。

万能のはたらきを持つネギを、季節の変わりめにも大いに食したいものです。

HADO(波動)の概念

HADO(波動)数値とは、生体・細胞が感じる度合いのこと。

プラスの数値は生体・細胞が共鳴・同調していることであり、この数値が高いほど、生体・細胞が「喜び・感謝」している状態を示しています。

逆に、マイナスの数値は生体・細胞が非共鳴・拒絶していることであり、この数値が低いほど、生体・細胞が「嫌がる・拒否」していることを示しています。

すなわちHADO(波動)数値とは、自然の一部である人間と、自然界の摂理との調和度合いの目安となるものです。

ネ	ギ
免疫	+10
肝臓	+9
疲労	+8
感冒	+9
手足冷感	+10
血液循環	+10
咽頭	+7
喉頭	+8
胃	+7
腸	+9
肥満	+8

HADO(波動)数値は0を基準として+20から-20までの数値で測定します。

+15以上
癒し効果の高い極めて優秀な食材

+10以上
健康に役立つ優秀な食材
(肉・卵は+7以上で該当)

+6以上
一般的な食材
(肉・卵は+4以上で該当)

0以上
少し低めのレベルの食材

-の数値
健康に負荷がかかる可能性のある食材



エヌ・ピュア 研究開発顧問
山梨浩利

1962年静岡県焼津市に生まれる。1985年中央大学理工学部工業化学科卒業。大手食品会社で主に食品の研究開発に従事。数々の商品を世に送り出す。サトルエネルギー学会、機器検討委員会などにも参画。その活躍は、広く海外にまで広がっている。

現在、山梨事務所を設立し、微生物・発酵・鉱物をテーマにした本物商品の研究や企画開発などを行っている。(株)エヌ・ピュア 研究開発顧問。著書に『見るだけ聴くだけ 超快眠！CDブック』『同超開運！CDブック』がある。